

令和3年10月1日

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の概要

熊野市教育委員会

1. 教科に関する調査結果について

小学校の調査結果については、国語、算数ともに平均正答率が全国平均を下回っているものの、前回、平成31年度の全国との差と比較すると、国語は3.1ポイント縮まり、算数は1.4ポイント縮まっています。

中学校の調査結果については、国語、数学ともに平均正答率が全国平均を下回っているものの、数学はその差が小さいです。また、前回、平成31年度の全国との差と比較すると、数学は0.6ポイント縮まっています。

【小学校の調査結果】

|       | 国語       | 算数       |
|-------|----------|----------|
| 熊野市   | 59%      | 66%      |
| 三重県   | 64%      | 69%      |
| 全国    | 64.7%    | 70.2%    |
| 全国との差 | -5.7ポイント | -4.2ポイント |

【中学校の調査結果】

|       | 国語       | 数学       |
|-------|----------|----------|
| 熊野市   | 60%      | 57%      |
| 三重県   | 63%      | 58%      |
| 全国    | 64.6%    | 57.2%    |
| 全国との差 | -4.6ポイント | -0.2ポイント |

2. 各教科における特徴について

(1) 小学校

① 国語

14問中2問が全国平均を上回っています。

具体的には「目的や意図に応じ、資料を使って話す」の正答率は、全国平均を約2ポイント上回っています。

しかし、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を得る」の正答率は、全国平均を約14ポイント下回っています。

学習指導要領の領域では、「書くこと」に課題がみられます。

## ② 算数

16問中4問が全国平均を上回っています。

具体的には、「複数の図形を組み合わせた図形の面積について比べることができる」の正答率は、全国平均を約5ポイント上回っています。

しかし、「三角形の面積の求め方について理解している」の正答率は、全国平均を約15ポイント下回っています。

学習指導要領の領域では、「測定」の領域が全国平均を上回っていますが、「数と計算」の領域に課題がみられます。

## (2) 中学校

### ① 国語

14問中2問が全国平均を上回っています。

具体的には、「話し合いの話題や方向を捉える」の正答率は、全国平均を約1ポイント上回っています。

しかし、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」の正答率は、全国平均を約11ポイント下回っています。

学習指導要領の領域では、特に「書くこと」「読むこと」の領域に課題がみられます。

### ② 数学

16問中6問が全国平均を上回っています。

具体的には、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」の正答率は、全国平均を約22ポイント上回っています。

しかし、「具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる」の正答率は、全国平均を約11ポイント下回っています。

学習指導要領の領域では、「資料の活用」の領域が全国平均を上回っていますが、「数と式」の領域に課題がみられます。

## 3. 児童・生徒質問紙調査結果について

### 【児童質問紙（小学校：全国平均との比較）】

※○：全国平均を上回る質問項目

●：全国平均を下回る、または、上回っても課題として捉えられる質問項目

※「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合（以下同様）

- 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか  
熊野市：69.6% 全国：40.1%
- 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか  
熊野市：93.4% 全国：81.4%
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか  
熊野市：82.6% 全国：78.8%
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか  
熊野市：77.2% 全国：73.4%
- 国語の勉強は大切だと思いますか  
熊野市：96.7% 全国：93.2%
- 算数の授業の内容はよくわかる  
熊野市：91.3% 全国：84.6%
- 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたか  
熊野市：67.4% 全国：64.6%
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか  
熊野市：64.1% 全国：70.1%
- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか  
※1日2時間以上  
熊野市：58.6% 全国：49.4%
- 自分には、よいところがあると思いますか  
熊野市：68.5% 全国：76.9%
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか  
熊野市：65.2% 全国：70.9%
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか  
熊野市：61.9% 全国：70.1%
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）どれくらい勉強していますか※1日当たり1時間以上勉強している割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）  
熊野市：53.3% 全国62.5%
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）  
熊野市：48.8% 全国：61.2%
- 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか  
熊野市：57.6% 全国：67.2%
- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか  
熊野市：54.3% 全国：63.8%

## 【生徒質問紙（中学校：全国平均との比較）】

- 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか 熊野市：79.8% 全国：65.9%
- 今住んでいる地域の行事に参加していますか 熊野市：59.6% 全国：43.7%
- 1、2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか 熊野市：94.5% 全国：83.7%
- 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか 熊野市：72.5% 全国：62.0%
- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか 熊野市：73.4% 全国：61.3%
- 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか 熊野市：89.0% 全国：75.8%
- これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど） 熊野市：47.7% 全国：34.8%
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか 熊野市：62.4% 全国：67.9%
- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか  
※1日2時間以上 熊野市：68.8% 全国：57.0%
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）どれくらい勉強していますか  
※1日当たり1時間以上勉強している割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） 熊野市：67.9% 全国75.9%
- あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか 熊野市：18.4% 全国：34.8%
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか 熊野市：64.3% 全国：70.2%
- 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか 熊野市：63.3% 全国：86.6%

ICTを活用した学習状況に関わる内容として、「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を週1回以上使用した」と回答している児童の割合については、全国に比べ約30ポイントと大幅に上回っています。中学校については、全国を若干下回っています。

基本的な生活習慣に関わる令和3年度に新たに追加された内容として、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答している児童生徒の割合は、全国に比べ約6ポイント低い状況にあります。また、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする」と回答している児童生徒の割合は、全国に比べ小学校で9ポイント、中学校で11ポイント高い状況にあります。加えて、使用時間が短い児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向がみられます。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、令和3年度に新たに調査内容が追加された中で、「休校していた期間中、勉強について不安を感じた」と回答している児童生徒の割合については、小学校では約半数の児童が、また、中学校では6割の生徒が不安を感じていました。そのような中で「計画的に学習を続けることができた」と回答している児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回っている状況がみられました。

#### 4. 学校質問紙調査結果から見えてきた傾向

全国学力・学習状況調査では、児童生徒質問紙調査に加え、学校における指導方法に関する取り組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する学校質問紙調査を実施しています。

その中で、「一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」「国語、算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか」「児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか」については、すべての小中学校が肯定的に回答しており、児童生徒一人一人の学習状況を丁寧に把握しながら、学力向上・授業改善に向けて、各学校が取組を具体的に進めていることがうかがえます。

その一方で、「国語・算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」については、小学校で肯定的に回答した学校が少ない状況がみられます。また、小中学校全体としては、「近隣等の小中学校との教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教

育課程に関する共通の取組を行いましたか」について、肯定的に回答した学校が少ないことや、ICTの活用面では、「学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、児童の状況に応じた指導に活用していますか」等、肯定的に回答した学校が少ない状況がみられます。

## 5. 今後の取組について

熊野市教育委員会では、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着に向け、学力向上推進事業及び学力向上支援事業を軸とした研修事業を展開しています。8月に行われた学力向上推進事業における研修会では、三重大学森脇教授を講師として招き、本年度の全国学力・学習状況調査結果を踏まえた、今後の授業改善の在り方について研修を行いました。また、学力向上支援事業では、市の研究指定を受けた学校が、外部講師による年間を通じた指導を受けながら授業改善に努めています。

加えて、県教育委員会の学力向上事業の指定を受けた学校もあり、算数における習熟の程度に応じた1人1台学習端末等のICT機器を活用した効果的な指導方法について実践的な研究を進めています。今後は、それらの学校の実践で得た成果と課題を他の学校にも還流し、県教育委員会が作成しているワークシート等も活用しながら、更なる授業改善と課題の克服に努めていきます。

さらに、学力向上アドバイザーや紀州教育支援事務所指導主事、熊野市教育委員会指導主事が学校訪問を行い、授業研究を通して学校での研修体制の充実を目指します。